別紙様式８

研　究　主　論　文　抄　録

論文題目　和文　ギリシア古代都市メッセネのメッセネ神殿の復元に関する研究
　　英文　A Study of Reconstruction of the Messene Temple at Ancient Messene

熊本大学大学院自然科学研究科　環境共生工学　専攻　人間環境計画学　講座
（　主任指導　伊藤重剛　教授　）

論文提出者　和文　安井　伸顕
　　英文　Nobuaki Yasui

主論文要旨

論文の構成

第１章　研究の目的とメッセネのメッセネ神殿の発掘や研究の背景と、ギリシア建築の研究における神殿に関する研究背景を述べる。

第２章　調査によって得られた、遺構や出土部材に関して、各部ごとに詳しく報告する。出土部材に関しては寸法の分析、考察を含めながら部材を分類し詳細に述べる。

第３章　2 章で報告した遺構の現状と出土部材から、神殿の復元を行う。まず、現存する部材の分析から復元可能な神殿の周柱の平面と内陣について復元を行う。次に、オーダーの復元を行う。部材のみでは判断できない柱の高さに関しては、次章にて他の神殿との比較により、値を決定する。

第４章　3 章で復元が完了したメッセネ神殿と他の神殿と比較しメッセネ神殿の建築的特徴を明らかにし、柱の高さを決定する。

第５章　総括と今後の課題を展望する。

研究の目的　メッセネはペロポネソス半島南西部にあり、紀元前 4 世紀半ばに建設された古代都市である。メッセネ神殿はアゴラ（広場）で 2003 年に発掘された新しい遺構で、そのためこれまで建築史的観点からの研究はされておらず、十分な報告がされていなかった。筆者は 2004 年～2007 年の毎年夏、現地にて実測調査を行い、メッセネ神殿の建築遺構の資料を得た。本研究の目的は、ギリシアの古代都市メッセネにおいて発掘されたメッセネ神殿に関して、調査で得られた資料に基づいて復元を行い、メッセネ神殿の建築的特徴を明らかにし、ギリシア建築史の中で歴史的位置づけを行うことである。

研究の背景　ドリス式神殿はクラシック期にその最盛期を迎えたといわれており、ヘレニズム期になると、より自由な設計が可能となるイオニア式が好まれ、ほとんど作られなくなってしまった。ドリス式神殿に関する研究は既に、数多く行われており、総括的な分析で代表的なものとしてはウィトルヴィウスが「建築十書」において、その設計法と比例関係について詳しく述べている。また比較的新しい研究としてはJ. J. クールトン氏によってその比例関係と設計法、施工法にいたるまで詳しく述べている。しかしながら先述したように、ヘレニズム期における、ドリス式神殿は例が少なく、新しく発見されたメッセネ神殿はその貴重な例の一つであるといえる。ドリス式の凋落期といわれるヘレニズム期においてドリス式神殿がどのように変貌を遂げたのか、現地調査による新しい資料を用い明らかにする。

メッセネ神殿の現状　メッセネ神殿は都市の中央、市民の生活の中心であるアゴラ（広場）のほぼ中央近い位置に建てられていたドリス式神殿である。遺構の広さは約15×30mであり、西側には5段の階段が現存している。神殿の基礎に関しては、床材を支えたと考えられるポロスによる基礎部材が西側に6列、東側に3列残り、また削られた岩盤がわずか出土しているのみでほとんど痕跡は見られなかった。遺構からはクレピス、スタイロベート、トイコベート、オルソスタットなど、神殿の床、壁を構成する部材が多く出土したが、エンタブラチャーの部材はわずかであった。この中から主要な部材86個の部材の実測を行った。神殿の建設時期は、考古学調査の結果から紀元前4世紀の終わりころだとされている。

メッセネ神殿の復元と考察　調査を行った部材の寸法から、基本となる柱間寸法を算出し神殿の周柱の平面を復元した。その結果、メッセネ神殿は正面6本、側面に12本の柱を持つ周柱式の神殿であることがわかった。また、内陣部を構成するトイコベート部材は、ほとんどが現存していることが分かったため、その形状と施工痕から部材の元の位置を特定することができた。柱の高さは現存する円柱ドラム部材の平均高さと他神殿との比較から得られた比例関係を元に復元を行い、円柱の下部直径の約6倍の値とした。また、神殿西側の階段を地形のレベルから復元すると9段が設置されていたことがわかった。

結論　メッセネ神殿は正面6本、側面に12本の柱をもつ周柱式の神殿であり、大きさは11.024×22.544mという周柱式の神殿としてはかなり小さなものであった。内陣はナオス、プロナオス、オピストドモスの3室をもつ形体で、プロナオスとナオス入口には扉が設置されていた。オーダーの比例関係では4世紀終わりころの神殿としては柱頭のくびれがやや大きく、柱のくびれが小さい傾向があった。また、トイコベートの側面にモールディングを施すなどイオニア式の影響も見てとれた。さらに、神殿西側には9段もの階段が設置されており、このような階段が付けられたドリス式神殿は非常に珍しい。